

コロナウイルスの感染防止のために③

毎日、ニュースを見るのが怖くなります。感染者ゼロは無いでしょうが、せめて一日の感染者が数人とか、回復者が多くなったなど…改善が見えてくると良いですが…。

先週ぶらんこNo.31で、コロナウイルスの感染防止のために、たくさんのお願いをしました。

早速土曜日は、育休中の方を中心に、家庭での保育の協力が有り、子ども園としましても最小限で保育が出来たところです。特に、いちご組の欠席が多く、保育教諭を3人帰らせました。午後からも仕事が終わる次第の迎えが多く、職員を半日で帰したり、4時に上がらせることも出来ました。

平日の昨日は、ぶどう、もも、ばなな組の家庭保育の協力が多く、職員を帰らせたり、夕方も就業時間を待たずして数名を、上がらせることも出来ました。

保護者の御協力で、施設内に、多くの子ども達や職員と一緒に過ごすことを避け、互いに子ども達を休ませたり、預けている保育園や児童クラブなどへ迎えに行くことが出来ます。また、社協運営の児童クラブへ応援へ行くこともできます。ありがとうございます。引き続き、ご理解、ご協力をお願いします。

2日に、発表された、専門家の試算によると、北海道全域では、現感染者 77 人の他に 940 人がすでに感染している可能性があるとの報告がありました。これは、軽症のあまり感染しているのに気付かない人(特に若者)が、知らず知らずにウィルスを拡散しているようです。特に北海道はこれが顕著に出ているようです。

宮崎県は、まだ感染者はいませんが、感染しても症状が出ていない人からの感染を避ける為にも、不要な外出や集会などを避け、検温(職員も始めました)や手洗い、マスク着用など自分にできる事をしていきましょう。

自分のちからで…

とうとう、庭に念願のアスレチックが出来上がりました。これは、ツリーハウスと冒険レンジャーが完成した、平成 30 年からの構想が実現したものです。立体遊具を一本橋や綱渡りをつなぎ、子ども達の冒険心をさらにくすぐる仕掛けになりました。これを機に、ツリーハウスへの登り下りが無くなり、安全が確保できた分、下のデッキは、積み木などの遊びのコーナーとして、のんびりくつろげる場になりました。

工事の期間中、わくわくで遊べる日を待ちわびた子ども達。これまで、木登りやツリーハウスなどで腕力やバランス感覚を自然と身に付けた子ども達は、その高さや揺らぎなどこれまでにない、感覚を体験しています。もちろん、誰でも簡単に上に登れないように、難易度はかなり高く設定してあります。

この誰でも登れない環境が、大きなけがや事故を防ぎます。自分の力だけで登れる子どもは、バランスを保って過ごしたり、無理なく降りることが出来ます。時には失敗して手が滑ったり、途中で落ちそうになることも有るでしょう。しかし、自分の力で登れた子どもは、受け身や危険を回避できる能力が自然と備わります。そこに行きつくまでには、小さな怪我や転倒などのリスクがつきものです。子ども達は挑戦する時のリスクと向き合いながら、大きな怪我や事故から身を守る術を自然と身に付けていくのです。

おおむたこども園の園庭の全ての挑戦は、『自分の力です！』いちご組の子どもでさえ、築山登りや太鼓橋など保育者は手を貸しません。小さな子どもも自分の手や足を踏ん張って前に進みます。「こわい!」、「無理!」と思ったら立ち止まるし、後退します。この時、私達は側で見守ります。時には泣く事も有ります。それでも手は貸しません。自分で始めた挑戦は自分の力で終わりにするのです。人や物の力を借りないで、自分の力だけで挑戦する魂は、0歳のハイハイする時期から始まり、培われていくのです。